

医療創生大学

心理学部

臨床心理学科

(※2022 年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校卒業時からぼんやり考えていましたが、明確な理由はありませんでした。また、医療創生大学への編入を考え始めたのは2年生の秋頃で、公認心理士の資格取得を目指したいという明確な目標ができたことがその理由です。

Q.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期から、編入と就職、それぞれの対策の授業に分かれるため、まずはそれまでに進路の方向性を大まかに決める必要がありました。編入対策の授業では、小論文や英語の課題が出されたり、特別研究（2年間の集大成として作成する論文）と志願理由の関連性などについての指導があります。また聖母短大は、福島大学の編入試験を受験する学生が多いので、それに合わせて夏休み前頃から面接練習や小論文の添削指導などに本格的に取り組みました。

Q.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の編入対策の授業で、編入担当の先生方から大学研究や特別研究の進め方、小論文や英語の対策などについてご指導いただきました。加えて編入のための学習は授業内に取り組むだけでは十分ではないため、個人的に先生にご指導をお願いしました。また、医療創生大学の編入試験を受験するにあたっては、授業や空き時間などにあらかじめゼミの先生にアポイントを取り、心理学や公認心理士の資格などについてたくさんお話を伺いました。

Q.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

編入対策をしていた時期は、自分自身の精神的な不調と向き合った時期と重なり、正直なところ勉強や成績などを気に掛ける余裕はありませんでした。今振り返ると、朝起きて短大に向かうだけで精一杯だったのだと思います。そのため、編入対策で努力したことに対する回答としては「思ったように努力できない自分自身を受け入れること」といったところでしょうか…。また、勉強内容としては構成を意識した小論文を書けるようにすること、心理学の基礎知識、心理職の現状を理解することなどを行いました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

「愛と奉仕に生きるよき社会人の育成」という聖母の建学の精神のもとに学んだこと全てです。「情けは人のためならず」ということわざもありますが、「私は今、目の前にいる人に何ができるのだろうか」と考える姿勢は、聖母で学ばなければ身に付けられなかったような気がしています。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「とりあえずやってみること」です。私は自分に自信がなく失敗への不安ばかりが先行し、やりたいことがあってもなかなか実行することができずにいました。そのような時、相談した先生から「結果は後からついてくるものだから、とりあえずやってみることが大事！失敗したとしても大抵のことはなんとかなる！」と力強いお言葉をいただきました。そのおかげで、失敗を必要以上に恐れたり、不安に振り回されることなく、自分の進路や選択に自信を持って進んでいくことができるようになりました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①不安な気持ちでいっぱいでした。

②とりあえず「なんでもひとりでやってみよう～！」

③進路が定まらずとにかく不安でしたが「なるようにしかならない」とも思っていました。

④可否はともかく、編入試験からの解放感で満ち溢れていました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

どのような進路選択をするにしても、自分の人生の決定権は自分にあると思います。また、短大進学を機に慣れ親しんだ環境を離れて一人暮らしを始める方も多いと思いますが、聖母の先生方や職員の皆様は「困っているので助けてください！」と言えば、必ず力になってくださることを覚えておいていただきたいです。